


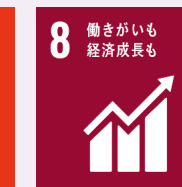




	外部環境認識	リスク	機会	マテリアリティ	重要性の背景	KPI	貢献するSDG s
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素社会の実現に向けた動きが世界的に拡大しており温室効果ガス削減取組を一層加速させる必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止に関する各規制強化に伴う原料、製造コストの上昇</li> <li>自然災害の激甚化に対応する設備投資の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素・脱炭素を実現する新製造技術の確立による競争力アップ</li> <li>脱炭素社会への積極的な対応姿勢による企業価値やレピュテーションの向上</li> </ul>	温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動・地球温暖化は当社の事業存続にも関わる大きな問題である</li> <li>地球温暖化対策として、温室効果ガス排出量の把握、削減の取組は重要な課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度のGHG排出量を2020年度比で23%削減する</li> </ul>	  
	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済活動に伴う環境負荷を低減させることが事業活動継続には必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷物資削減の停滞や重大な環境事故の発生による企業価値やレピュテーションの毀損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の分析評価や保全活動による企業価値やレピュテーションの向上</li> </ul>	環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題への取り組みは、人類共通の課題であり企業活動において必須の要件として、主体的に行動しなければならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間廃棄物発生量 10,000 t 以下</li> <li>リサイクル率 40%以上</li> </ul>	    
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業と人材を取り巻く大きな環境変化に適切に対応し、継続的に組織力の向上を図ることが重要課題であると認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きがいの低下が組織パフォーマンス低下に直結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きがいを向上させ組織パフォーマンス向上</li> </ul>	働きがいの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業が持続的成長を実現し、新たな価値を創造するにはワークライフバランスの充実、多様な人材が活躍出来る職場環境、人材の育成が必要である</li> <li>人的資本の強化・成長を促す制度の充実</li> <li>業務プロセスの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用において応募者に占める女性の割合を30%以上</li> </ul>	  
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産年齢人口減少・健康に対する関心増大</li> <li>女性の社会進出・ライフスタイルの多様化</li> <li>人権の尊重と公正な労働慣行の高まり</li> <li>労働安全衛生マネジメントシステムへの要求継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営、労働安全衛生を推進できず、組織力向上ができない</li> <li>人権を意識しないことで訴訟・行政罰を受け企業価値が低下し、人材流出を招く恐れがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営、労働安全衛生に適切に対応し、組織力向上を実現する</li> <li>人権にまつわる課題に適切に対処し、企業としての責任を果たす</li> </ul>	健康経営、労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人を大切に技を大切に」を企業理念としている企業として、従業員の労働環境に配慮し、健康の維持・増進に力を入れ、個々人の能力を十分に発揮できる環境を提供する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導実施率 100%</li> <li>当社休業災害発生 0件</li> </ul>	 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的価値の台頭にいかに対応するかは企業経営における重要課題であると認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所地域から信頼性が低下し、事業活動の継続ができなくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所地域のコミュニティから信頼を獲得し、事業を安定させ、企業価値増大を実現する</li> </ul>	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会との共存のために、事業所において地域に根差した社会貢献活動やコミュニケーションを行ない、地域社会との信頼関係を醸成することは企業の責務である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動（清掃活動）の実施</li> </ul>	 
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業におけるコーポレートガバナンス機能、リスクマネジメント機能の強化を継続的に図ることが重要課題であると認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンスの高度化に対し迅速かつ機動的に対応できず、中長期的に企業価値を毀損する</li> <li>法令違反、不祥事等の発生により、大きな損失が生じたり、場合によって企業継続に支障が生じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンスコードに対応したコーポレートガバナンスを推進し、企業価値増大につなげる</li> <li>コンプライアンス徹底における法令違反、不祥事等の未然防止を図り、企業価値増大につなげる</li> <li>重要な経営指標のさらなるモニタリングによる収益性が向上して企業価値増大につながる</li> <li>投資の将来性や健全性の確保</li> <li>財務健全性に配慮した最適資金調達の見直しと政策保有株式縮減等による資金の効率的運用</li> </ul>	コーポレートガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部及び内部環境の変化を的確に捉え、意思決定と業務執行を迅速に進め、公正で透明性の高い経営の実現を目指し、ガバナンス体制の強化が必要である</li> <li>全社的リスクマネジメント体制の運用向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員トレーニングの実施</li> </ul>	 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンスコードの2021年改訂</li> <li>上場企業における品質不正問題や内部統制上の重要な不備の発生継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益性が低下</li> <li>投資採算性の悪化</li> <li>資金コストの増大</li> </ul>		コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令違反、不祥事等の発生により、大きな損失が生じたり、場合によって企業継続に支障が生じるので従業員に対するコンプライアンス意識の浸透が必要である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス意識の向上</li> </ul>	  
提供価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や組織の垣根を超えた協力関係による強靱なサプライチェーンの構築が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地政学リスク、世界秩序の変化、資源ナショナリズム等による原料供給不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給による顧客信頼度の向上</li> <li>計画的生産による原価低減</li> </ul>	サプライチェーンマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高い品質の製品とサービスを安定的に提供するには、原料のサプライヤーから販売先である顧客に至る強靱なサプライチェーンの構築が必要</li> <li>サプライチェーン全体を通じて社会、環境に与えるリスクを軽減させ、事業のサステナビリティを実現する必要がある</li> <li>BCPの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーへのCSRアンケートの実施</li> </ul>	  
	<ul style="list-style-type: none"> <li>価格や品質だけでなく、環境や社会に対する貢献度の高い製品が今後の市場で求められるようになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の市場ニーズを見誤り、持続的売上確保が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様それぞれのニーズに応じた製品とソリューションの提案</li> <li>持続的なイノベーションの推進</li> </ul>	価値を生み出す開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮し、お客様のニーズに応じた製品とソリューションを市場に提供することは持続的社会的実現に貢献するとともに、競合品との差別化や事業の収益性を高めることになるので重要である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境貢献製品対全売上高比率 10%以上</li> <li>特許出願件数 年間30件以上</li> </ul>	   